

第52回公害環境デー

2024年2月3日

地球沸騰化の時代

本気で止めよう！

今と未来に責任を果たそう

地球規模で見た気候・環境問題

- * 化石燃料開発は止まらず気候危機はさらに深刻に
戦争・紛争で対策は停滞や後退・エネ自立のための化石燃料の新たな開発
これから深海底・北極海開発 環境破壊・紛争問題の可能性
- * 環境破壊以外に 農業・漁業など地域の産業の変化・破壊
人類の食と水確保の安全の危機 新たな紛争に？
- * 氷河・氷床の融解 これから進む海面上昇
- * 先進国と新興大国・途上国間の中の溝は大きいが少し改善も
- * 気候危機は地球沸騰時代・瀕死の1.5℃目標が叫ばれる
2030年までに基に戻れなくなる事態に？ 悲観的見方が多い
- * 熱帯林開発は少し悪化に歯止め？
アマゾン・東南アジア・中央アフリカ マングローブ林再生など

地球規模の公害問題

* いまだ深刻な大気汚染

気候危機の原因とも関連

年間700万人もの関連死亡

* プラスチック汚染問題

やがて海洋生物より多くなる海洋中のプラスチック廃棄量

* PFASも地球環境汚染物質にクローズアップ？

発がん性物質として分類 欧米で規制強まる

一切の健康調査せず、始まった「官」・「業」の『安全神話』

* 従来からの水銀なども蓄積

* 自然環境由来以外の核実験・原発関連からの放射性物質の追加

日本の公害・環境行政の問題点

昨年も出した状況ですが… さらに悪化と言わざるを得ない

* 気候危機への対応、本気でする気？ 世界的にも冷ややかに見られる

いまだに石炭火発を「本気で残すつもり」 大手電力の言いなり

* 企業利益保護での対応 公の役割を果たしていない

* 被害者救済に積極的な姿勢がない

ミナマタ訴訟も高裁に控訴 原発推進政策・「国策」の責任を取らない

* 環境基準の厳格さがまだ足りない

NO2・PM2.5見直さない？ 石炭火発が汚染源に

PFAS対応も遅い

プラ対策の「停滞」？

* 来るべき南海トラフ地震には？ 対策にイニシアチブが見られない

膨大なごみ発生の予想 備えは必要 急がれるインフラ整備：大阪は大幅遅れ

大阪での公害環境問題(1)

* 大気環境問題

全般的な軽減はあるものの局所的にはまだ未解決
新しいWHO環境基準にどう対応するか
自治体が政府をリードできるか

* 建設アスベストはじめアスベスト健康被害

これからも被害者は発生

* プラスチックによる公害

寝屋川廃プラ問題（健康被害の持続）・ごみ回収処理の未解決

* 水俣訴訟関係 近畿訴訟は第一審勝利・控訴審へ

* 原発避難関西訴訟 やっと本人尋問などが進む

* 道路公害：自動車専用道路を含む

騒音・粉塵・排ガスなど 呼吸器疾患発生・増悪

* 今後：北陸新幹線建設延伸が浮上

大阪での公害環境問題(2)

* 万博・カジノ・IR

必発の地盤沈下・埋設物による環境汚染問題

廃止世論が6割超 重大局面に入る 地道な反対運動が反映

さらに税金投入「引き返せない維新行政」日本政府に責任転嫁

* 有機フッ素化合物汚染

日本一河川・地下水の汚染が強い大阪での調査開始

途中経過で、様々な種類のPFASで100%近い人が汚染？

PFOAは「発がん物質」に分類

* 小さな町に大きな産廃焼却場建設計画（忠岡町）

大気汚染・産廃燃焼に伴う様々な汚染物質拡散のリスク

大阪での公害(3)

公園の林・街路樹撤去問題

(23年11月朝日新聞より)

日本の街路樹は20年で50万本消えた　いま神宮外苑再開発・日比谷公園

理由：ふん害、落葉、交通、倒木などのリスク　管理費がかかる

林や街路樹の多彩な効果

温暖化対策（ヒートアイランド）、生物多様性保全、防災

大気浄化、CO2吸収、雨水流出抑制など

これに基づき吹田市で計算：8769本撤去

CO2吸収+固定　1460トﾝ　3033万円

大気浄化　961kg除去　医療費削減1158万円

回復するための「樹木補償額」　7億7千万円

大阪市の場合：大阪城公園・長居公園・天王寺等や街路樹

18－24年度で1.9万本

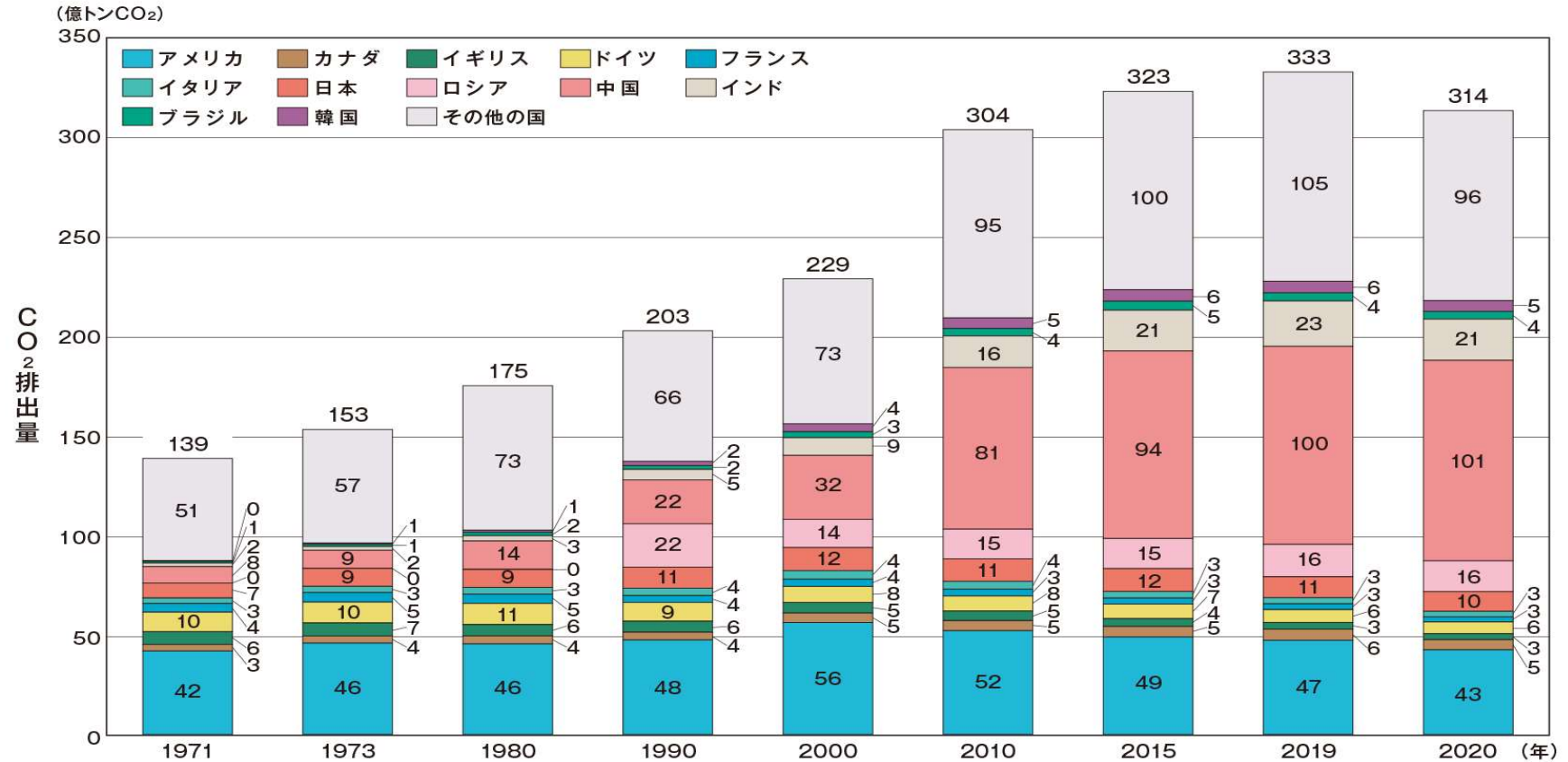
商業施設建設のための伐採も多い　憩いの場から「儲ける」場所へ

動き始めた住民運動

さて地球温暖化はどうなっていく？ 国際的動き

- 1985年 地球温暖化に関する初の世界会議（フィラハ会議）
- 1988年 国連環境計画・世界気象機関がIPCC設立
- 1992年 第2回世界気候会議・気候変動枠組み条約作成採択
- 1997年 京都議定書；先進国の温室効果ガス排出削減
- 2015年 パリ協定：+2°C以内に、+1.5°C努力目標
196全ての国が排出削減目標をつくり実践
- 2021年 グラスゴー合意：1.5°C抑制が目指すべき目標に
しかし「気候温暖化」・「気候危機」・「地球沸騰化時代」に
今のままでは +1.5°C以内抑制には6年の余地しかない

世界のCO₂排出量の推移

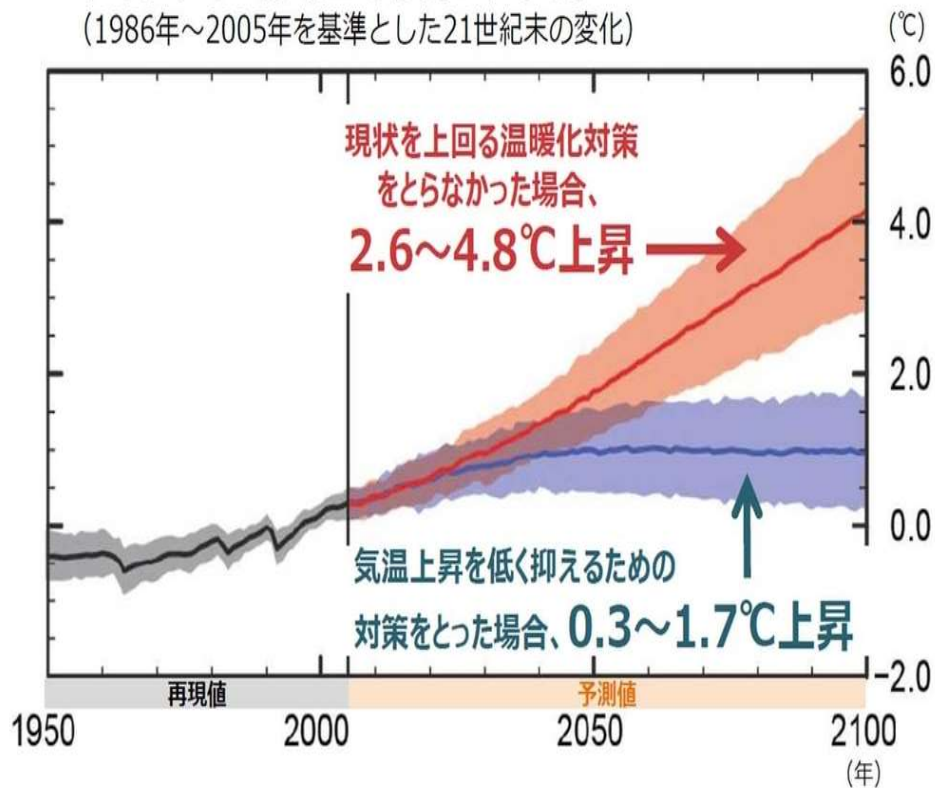


(注) 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある
 ロシアについては1990年以降の排出量を記載。1990年以前については、その他の国として集計

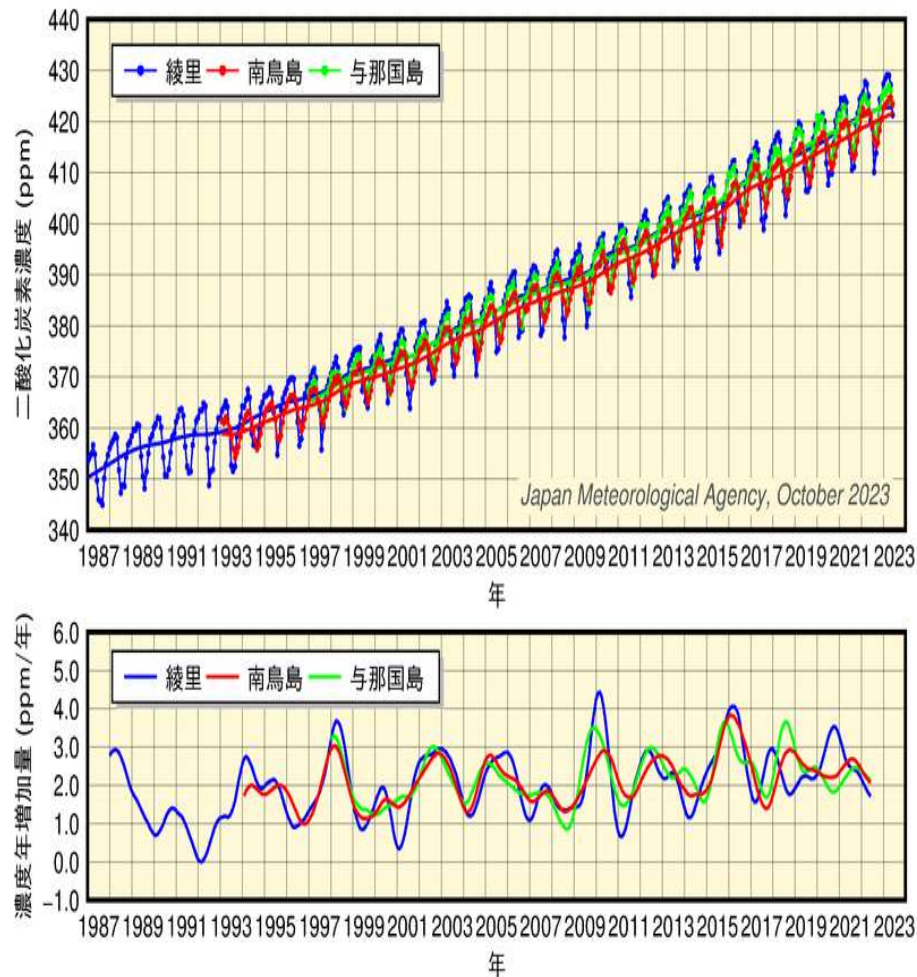
対策をとった場合でも気温は上昇

●世界の平均気温の変化の予測

(1986年～2005年を基準とした21世紀末の変化)



日本周辺のCO2濃度



23年気候危機はどこまで進んだか？

* 1940年以降 最も暑い12カ月

世界は 平均気温14.98度 + 1.48°C (EU気象情報機関)

日本は + 1.29°C (産業革命前より)

* CO2濃度過去最高

排出は過去最高の368億トン (石炭が41%)

残された炭素予算は2750億トン あと7年で使い切る

22年濃度は417.9ppm 産業革命前の1.5倍の濃度

1%の富豪が50億人分排出 世紀末には500ppm

* 現在の排出削減目標では世紀末には2.9度上昇

* 気候変動で世界で毎年500万人が死亡・世紀末には5倍に

気候危機で現実化している被害

■災害

- * 熱波 * 乾燥 など
- * 大規模な山火事も
- * 熱帯低気圧の大型化
- * 海面上昇・国土の喪失
- * 豪雨・洪水の増加
- * 水不足

■食料危機

- * 干ばつ
- * 耕作適地の減少

■人権・生存権の侵害

■子供への被害（キッズライツより）や健康被害

- * 感染症の増加 マラリア・デング熱等
COVID19・これから新たな感染症も
- * 熱波 熱中症・熱中死増加
- * 食料危機に突入：戦争・紛争の増加
飢餓の広がり と深刻化
世界で10億人の子どもにリスク
子供に限らない被害に転化も
人間以外に家畜の死滅

■環境のさらなる悪化

気候変動で変わる農林水産業

* 海の変化

海水表面温の上昇

海水熱波

森林の荒廃で磯がれ

魚種の変化

温帯性の魚の北上

* 亜熱帯北上で農業も直接影響を

米・果実の変化 品質低下 (* 23年一等米60%以下に)

* 干ばつ・豪雨の影響 耕作地の変化

* 危機感のない日本政府 世界の人口増はさらに続く

いつまで食を輸入に頼る? いつまでも輸入依存は可能か??

* 農林水産業保護策なく従事人口減少

日本の自給率はさらに低下?

戦争・紛争が気候危機を増幅する

* ロシアのウクライナ侵略

一時的に石炭火力に 各国が 独自の化石燃料開発・確保の増加

* 紛争が被害を大きくした

リビアの豪雨・ダム決壊で被害 インフラ整備の余地なく拡大

* 戦争・紛争は気候危機対策の足を引っ張っている

ウクライナ・パレスチナ自治区の破壊 都市復興にCO2 排出増

* また気候危機は新たな戦争・紛争を惹起する

難民増加・食料や水資源の争奪

* 戦争行為を止めさせることが急務…

紛争の平和的解決・共存の世論を大きく

戦争による環境破壊・温暖化増悪の一例

(赤旗1月8日号より)

ロシアのウクライナ侵略によって

- * 農地の破壊：農業生産の減少
- * 森林浸水 森林火災面積は21年の100倍
- * カホウカダム破壊：損傷した工場が浸水して化学物質流出？
- * 22年にCO2 排出 3300万ト
- * 戦後の復興事業でCO2排出 4870万トの見込み

ウクライナが行う対策：戦争が終わるのを待つことはできない

- * 植林10億本（すでに4億本植林済）
- * ダム再建 穀倉地帯の地雷撤去 脱炭素融資 風力発電

気候変動で広がる疾病・感染症

人類を最も多く殺している動物の生息域拡大・大雨での発生増

マラリア : ハマダラカ 世界で年間60万人以上死亡

デング熱 : ヒトスジシマカ・ネッタイシマカ

昨年は世界で560万人に感染

バングラデシュで31万人感染 1600人超死亡

熱中症被害の広がり

救急搬送数の増加が固定

電気料金の高騰・高齢化が加速因子に

CO₂増加は大気汚染も増悪

世界で年間700万人以上が影響うけて死亡

省エネはエネルギー政策・気候危機対策 重要な一環を占める

多くのエネルギー計画では省エネを重要な一環に位置づけ

省エネ⇒エネ創出減量⇒気候危機対策に貢献

各家庭・個人の努力

電気製品などの省エネタイプに切り替え・移動手段など行動変容

社会的な戦略として位置付ける

建築物の省エネ化 ZEH・ZEBなどの政策的誘導

熱利用の効率化

COP28の合意では

30年までに再エネ設備容量3倍・エネ効率改善2倍に

原発推進は未来に対して無責任

最大の無責任さは核のごみ増やし

日本の国土に10万年以上も保存できる最適地はあるのか？

日本の国土は動いていることを無視

誰が保管に責任を持てるのか？

核のごみの保管はどうあるべきか、再考の時期

国民による哲学的思考が必要 利益受容者に任せてはいけない

これ以上核のごみ増やさないこと

そのためには原発を増やさない・稼働を停止する

そのことでごみ収容量が判断できる

地震国日本では危険な手段 福島教訓を忘れてはいけない

気候危機等の中で原発は維持できるか？

気候変動関連事象による原発の運転停止の急増

* 内陸の原発（欧米・中国・ロシアなど）

干ばつ、水温上昇で発電量抑制

近隣の森林火災で作業員避難

* 海岸沿いの原発（日本など）の将来は？

海面上昇 高潮による影響

敷地はゼロメートル地帯に変化する

浸水・豪雪で交通網の遮断 避難に障害

原発稼働は気候危機進行の中で対応を迫られる

さらに紛争時には攻撃される危険な施設・目標物

チェルノブリ・ザポロジエなどの事例

能登半島地震で起きた志賀原発の問題

外部電源から電力を受ける変圧器破損の問題

1, 2号機とも破損外部電源一部途絶え復旧には半年

情報二転三転

「火災発生」「水位計に有意な変動は見られなかった」

「漏れた油は約3500㍓」「内部にとどまる」 等々

油大量漏出

漏れた油の量は1, 2号機から23400㍓（外部に約6㍓・海面に油膜）

活断層の長さ 90km 実際には150kmだった

予想上回る振動 基準地震動（最大振動）をわずかに上回った 基準見直し必要

モニタリングポストの障害 通信障害でデータ欠測 避難の滞り起こす

避難計画は「机上の空論」を証明 今回は避難路寸断 実情をつかめなかった

毎日新聞1月13日号より再編

原子力規制委員会の対応

変圧器の故障と油漏れ・復旧に半年かかる

特別な耐震性を求めていなかった：震度5弱で故障について「故障原因の究明は必要」だが「安全上の影響が及ぶとは考えていない」

「想定外」の地震（震源・大きさ）

他の原発も含めて、基準地震動や他の震源の有無などは見直す考えは無し

空間放射線量欠測・道路寸断など：災害対策指針の避難に課題

線量測定はドローンなどでもできると問題にせず

避難計画が「机上の空論」については規制委員会の「守備範囲外」で触れず

稼働中だったらという想定・検討はせず

電気事業連合会の見解

1月11日時点の「特設サイト」より抜粋

揺れにくい強固な岩盤に建設・適切な耐震設計

ハウスメーカーの耐震性（約5000ガル）やK-NET（近くの測定点2828ガル）と単純に比較できない

外部電源の一部喪失

5回線のうち2回線は損傷したが3回線は大丈夫

使用済核燃料プールから冷却水があふれた

プールで水が波打ち現象で床面に飛散 約21700Bq
量は微量ですぐに拭き取った 冷却機能に影響ない

冷却ポンプが一時停止

約40分後に速やかに回復し、水温には変化はなかった

「安全性に異常はない」

もし珠洲原発が造られていたら…

* 「珠洲原発」：1975年計画発覚・反対運動・2003年計画凍結

* 海岸線の4分の1の隆起の影響

配管・外部電源喪失・回復工事が間に合わず

* 珠洲市では地震動はいくらだった？

震源から60km以上離れた志賀原発で1000ガル弱だった。

震源の珠洲市ではいくらだったのだろうか？

* 結果的に福島第一原発事故の再現必発 多分それ以上の事故

汚染は中部・信越・関東に広がって…

風向によっては近畿や中国地方にも…

* 不幸な形で日本の原発政策の終焉を迎えていた

* 珠洲市の反対運動に改めて感謝

地域復興に関電や中部電は大いに貢献しても

* 政府もGX・原発政策を見直すべき 原発収束政策に切り替え！

COP28の成果と課題

成果

- * 「損失と被害 (R&D)」 支援の基金合意と資金拠出表明
金額的にはまだ第一歩にすぎない
- * 排出削減の取り組みの点検実施
- * 化石燃料「段階的廃止」から後退したが「化石燃料から離脱」の合意
- * 30年までに再エネ設備3倍・エネ効率改善2倍（2%から4%に）
しかし1・5°C目標のためにはさらにその3倍が必要との解析も

残された課題

- * 多くの抜け穴：原発やCCSの推進・「排出削減措置のない石炭火力」の表現の範囲内
- * 実質排出ゼロ実現のため30年までに行動を加速することの必要性は確認できたが…

正式会合以外で

- * 50年までに「世界の原発3倍化」宣言 23カ国 日本（喜んでこれには参加！）
- * 新規融資停止めざす脱石炭連合・米加EUなど9カ国
- * 「脱石炭連盟」に米国も加盟 57カ国 日本はまだ参加せず

世界は「GXは気候危機に不対応」と冷ややか

* GXの定義はあいまい（政府関係者） 産業政策の一つでしかない

* アンモニア・水素混燃石炭火発のCO2減少効果は少ない

* CCS（CO2を地中に）は救世主になるか？？

日本に適地がどれだけある？ 多量処理できる？ 膨大なコストを考えれば出さない方を

* 原発依存・推進にかじを切ったが…

原発の「一生」は石炭火発に次いでCO2発生が多い

稼働時に少ないといっても新設稼働は35年以後

それまでに途中で建設でCO2発生・火力発電使い続ける

稼働時にはティッピングポイントを過ぎている

原発には火力発電など外部電力のバックアップが必要

実現すれば結果的に高い電気料金を支払わされる

* 見せかけの環境配慮「グリーンウォッシュ」・政府「移行債」からGXは消えた

GX (グリーン・トランスフォーメーション)は何のため？ なぜ？

再エネ普及を遅らせる

再エネ予算はやっている感のポーズだけ？

なぜ、再エネに大幅な予算を付けないのか？

大手電力・関連産業保護政策？

再エネ普及はこれら企業の大きな利益を保証できない

世界の動向を読めない能力

エネルギー政策担当能力はあるのか？

世界への貢献と大きな経済的利益を失う

本音は原発維持で核兵器開発の可能性維持

結果として日本のエネルギー分野の総合力量の低下

国際的な発言力はこの分野でも低下

エネルギー戦略の抜本的・急速な転換を

気候危機はティッピングポイント（*）を迎えようとしている

すでに+1.3°C超

* +1.5°C超えていくつかの地球システムの臨界点を超え逆戻りできない

2050年にカーボンニュートラル達成では間に合わない

2030年、35年が重要な通過点

日本政府は2050年にも達成できないかもしれない政策選択

今ある技術でできることを強力に進めようとしていない

化石燃料発電をアンモニア・水素燃焼へというけれど

化石燃料火力発電量をまかなえるほど確保できるか

世界の動向に従って再生可能エネルギーを主役に設定するべき

気候危機

政府が転換すべきエネルギー政策

- 原発維持・建設の費用を再エネ設置に回すことで再エネを飛躍的に増やす
- 身近で使える再エネ・省エネ技術の普及と新規開発促進を支援
- 当面可能な支援
 - * 新築建造物に加えて、既設住宅へも太陽光発電・熱利用施設設置支援
 - * 新しい建物のZEB・ZEHだけでなく既設の改装の支援強化
 - * 地域コミュニティの地熱利用・太陽光発電・小風力発電に支援
 - * 地域内林業への支援と木質バイオ開発に支援
 - * 地域内中小水力利用への支援
 - * これらは疲弊した地域に仕事を生み出し、活性化も可能
 - * 技術者・行政マンの人材派遣で自治体支援を行う
 - * 東京一極集中の弊害を減らせる

気候危機

自治体・首長に求めたい政策・姿勢

- * まず自主的な態勢を確立し、指示待ちにならない
- * 環境・エネルギー宣言やゼロカーボンCity宣言を行う
そしてその理念を地域に浸透させていく
- * 地域の課題・問題点の解決につながる温暖化対策の実施
- * 地域の特色を生かしたエネルギー創出政策を立てる
- * 自治体職員の積極性・提案を引き出し働き甲斐を見いださせる
- * 住民のエネルギー創出・省エネルギーの取り組みに寄り添い、支援する

気候危機

気候危機問題を市民目線で踏み出す

* 気候危機は感じて、さらには行動へとは結びついてない

まだ他人事かも知れない 知識では知ってる「つもり」

* 気候危機…でも何をしたらよいのか

足を踏み出せてない方も

市民ができることを取り上げ、実践に移す

* 政府・自治体・産業界に取り組みを促していくことも必要

気候危機

市民にできること

政府・自治体に原発止めて再エネ推進を働きかける

自治体の多くはまだ「自発性」が少ない

原発依存地域経済体制から抜けだせず過疎化進む

自ら、再エネ普及に取り組む

共同発電や自宅に設置 熱利用も含めて 資金提供

省エネに取り組む

断熱対策 壁の断熱 窓の二・三重化 断熱フィルム

家電製品の省エネ 無駄な使用を減らす

常に未来世代の利益を基準に考える

自治体に宣言を迫る活動も

気候非常事態宣言・ゼロカーボンシティ宣言

気候非常事態宣言自治体 (23年12月末時点)

世界 2000以上

日本 130以上 県市町村・広域連合など

大阪 12市町

ゼロカーボンシティ宣言 (23年9月末時点)

日本 1013自治体 (/1764)

46都道府県 (茨城県以外)

570市(/792) 22特別区(/23)

327町(743) 48村(/183)

大阪 大阪府 及び28市町/43市町村